

また本誌に掲載漏れとなつてゐる木簡出土遺跡も数多くあるものと思われる。本会では、このような遺跡について今後とも可能な限り増補していくたいと考えてゐるので、関係者と会員各位のご協力ををお願いする次第である。

(橋本義則)

凡例

木簡学会役員	
会長	平野 邦雄
副会長	大庭 僥
委員	青木 和夫
	鬼頭 清明
	早川 庄八
	松下 正司
幹事	和田 萃
	田中 琢
	岩本 次郎
	笹山 晴生
	原 秀三郎
	八木 充
	吉田 孝
監事	長山 泰孝
	加藤 優
	寺崎 保広
	村上 隆
幹事	綾村 宏
	館野 和己
	橋本 義則
幹事	吉川 真司

一、以下の原稿は各木簡出土地の発掘機関に依頼して、執筆していただいたものであるが、体裁および釈文の記載形式等については編集担当の責任において調整した。

一、原稿の配列はほぼ奈良時代の五畿七道の順序に準じた。
一、釈文の漢字はおおむね現行常用字体に改めたが、「實」「證」「龍」「廣」「盡」「應」等については正字体を使用し、異体字は「井」「ヰ」「季」「駄」等についてのみ使用した。

一、釈文下段のアラビア数字は木簡の長さ・幅・厚さを示す（単位はミリメートル）。欠損している場合の法量は括弧つきで示した。その下の三桁の数字は型式番号を示す。またそれぞれの発掘機関での木簡の通し番号は最下段に示した。

一、釈文に加えた符号は次の通りである（八頁第1図参照）。

「 」 木簡の上端ならびに下端が原形をとどめていることを示す。

< 木簡の上端・下端に切り込みのあることを示す。

抹消した文字であるが字画のあきらかな場合に限り
原字の左傍に付した。